

テーマ「現地を訪問して想うこと」

現地訪問：2012年10月13日～14日

岡本 邦良（71年卒・経営学部）

あの日（3月11日）の事は決して忘れません。我が町（愛知県）でも生涯一番の揺れを私は感じました。そしてTVを見たら日本列島の北から南まで津波警報がでており、現実かと自分の目を疑いました。次に目にしたのが東北の非情な大津波、心が大変痛みました。

遠方にある私には何もできず心ばかりの義援金のみで、月日が経つにつれ薄れつつありましたが、丁度立命校友会からの「東北応援ツアー」の案内を見て、同期の仲間3人と早速応募しました。

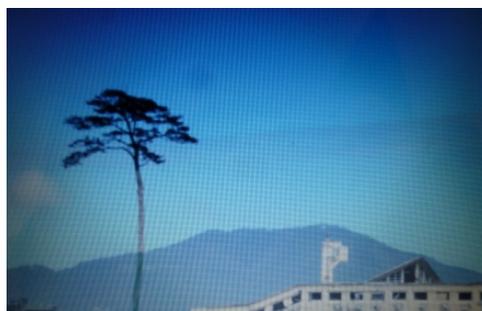
参加動機は、現地を自分の眼で見る事、そして岩手県を選んだ理由は陸前高田にいる同期（71年卒）の鈴木さんの顔を見て、現地の様子を直接聞き復興に向けて少しでも応援したいためです。

九死に一生を得た彼の生命力、そして「奇跡の一本松」が心の支えとして地元の人にとって格別な想いがある事もよくわかりました。

来年2月には復興のシンボルとして元の場所に戻り地元の人々の元気の源になる事を祈念する1人です。

大槌、宮古地区でもまだまだ復興が進んでない町並を目にしました。

一日でも早い復興のために、今後とも応援していきたいと心新たにしました。



奇跡の一本松（復興のシンボル）



祈る早期復興（大槌町並）



復興への日の出（宮古浄土ヶ浜）

今回参加された皆様は、遠方から来られた方も多く復興への想いが大変強く、エネルギッシュな姿に感銘を受けました。

最後になりましたが、今回企画して頂いた立命校友会事務局の方々はじめ関係者の皆様に感謝申し上げます。東北復興はまだまだ長い年月が必要と思いますので、今後この応援ツアーが継続されて、多くの立命校友が参加されることを望みます。

——東北の早期復興、みんなのパワーで！——

以上